

令和5年4月6日（木）

令和5年度 第1学期 始業式訓話
—目標を持とう—



佐賀県立武雄高等学校 下村 昌弘

- 全校の皆さん、改めまして、おはようございます。学校長の下村昌弘です。
- いよいよ新年度、新学期がスタートしました。おそらくここに集まっている皆さん一人ひとりは、新しい生活に向かう、少しの緊張感とこれからの学校生活に対する大きな期待感をもって登校してくれたのではないのでしょうか。今の、そのこそばゆい気持ち、何かに踏み出せそうな、わくわくした思いを大事に育ててほしいと思います。
- 3年生のみなさん、今年度は成人を迎えますね。昨年、新しい民法が施行されました。もちろん、誕生日によって成人を迎えるタイミングは若干異なりますが、成人を迎える学年として、社会とつながったイメージをより強く意識して勉強する必要があります。いわゆる座学だけの勉強にとどまらず、その学びの内容が世の中の、世界のどういうところにつながっているのか、想像力をたくましくして勉強してください。それが受験勉強の原動力になります。
- 2年生の皆さん、高校生活にも慣れ、昨年以上に余裕をもって楽しむことができる年代となりました。大いに自分の興味・関心のある分野を深掘りしてほしいと思います。それは教科・科目といった学問的な内容でもいいし、SDGs・街づくりなど現代的な課題でもかまいません。また自分が熱中しているスポーツ・芸術分野でもいい、一番自分らしいことについて、広く調べ、深く考えてほしい、これが深掘りするということです。それが大学入試につながっていきます。
- 皆さんは、この3年間、学校生活を新型コロナ感染への対策とともに過ごしてきました。その窮屈な感覚からようやく解放されようとして来ています。マスク着用も自分の判断でというのが基本となりました。この「自分の判断で」というのが実は難しいことですが、自分で判断するということは自分で責任を持つということでもあります。それこそが自立の一步です。武雄高校生である皆さんにはぜひ、主体的で自律的な高校生活を送ってほしいと思います。
- 私たちはこの3年間、コロナをとおしてして多くのことを学びました。これが

らあらゆる事柄がコロナ禍前の状態に戻っていくことでしょう。しかし、無自覚に事を以前の状態に戻すのではなく、コロナ禍で学んだ「何のためにそれをするのか」という目的意識を自分の行動の尺度、物差しにしてほしいと思います。つまり自分は何をすべきか、その「目標」「目的」に即して自分の頭で考えてみるということです。

- 皆さんは、今、どんな目標をもっているでしょうか。皆さんにとって人生の目的は何ですか。そこで今日は、目標や目的を持つことの大切さを2つのたとえ話で説明したいと思います。しっかり聞いてください。

- 一つ目は「うさぎとかめ」の話です。「なんだ、そんな子どもっぽい話か」と思ったかもしれませんが、一緒に考えてみてください。

- うさぎとかめの話は皆さん知っていますね。うさぎとかめのかけくらの話。歩みののろいかめは、ゴール手前で余裕を見せて居眠りをしているうさぎをうまいこと追い抜いてゴールする、あのお話です。

- ではここで問題です。「なぜ、かめは、うさぎを起こしてあげなかったのでしょうか？」

- ちょっと考えてみてください。あなただったら起こしてあげますか、どうしますか？ かめはずるくないですか？ 勝つためにはこれしかないとも思ったのでしょうか？



- 私は、そうではないと思います。

- それはかめの視線を想像すれば分かります。かめはどこを見ていたのでしょうか？ ……かめの視線の先には、きっとうさぎの姿はなかった。かめが見ていたものは、山の頂上、つまりゴールです。かめはゴール、いわば「目標」しか見ていなかったのだと思います。

- それに比べ、うさぎはどうでしょう。うさぎはどこを見ていましたか。うさぎは、かめのことばかりを気にしていた。つまり、目標から目をそらし、後ろばかり、他人のことばかり振り返っていたのではありませんか？

- まとめます。「目標をしっかりとって、そこから目をそらさないこと」。それが勝つコツです。

- この話には、別バージョンがあって、そもそも、かめはうさぎと勝負すべきではなかったというものです。
- うさぎは瞬発力があり、速く高く飛ぶことができる。かめは歩みがのろい。しかしかめは千年の時を生き続けることができる。つまり、それぞれの良さがあるのであり、同じ土俵で比べるのは意味がないということです。あなたはあなたであり、他人と比べてみ意味がない。これもいい話でしょ。
- では、もう一つ。北極星の話です。武雄は如蘭塾、中国とも縁がありますので、論語の中からの紹介です。
- 耳で聞くだけですからちょっと難しく聞こえるかもしれませんが、今からいう漢文を心の中で復唱してみてください。いいですか、「北辰の其の所に居り、衆星の之に共^{なら}ふがごとし」。
- 「北辰」とは北極星のことです。「衆星」とは「たくさんさんの星」の意味。全ての星は北極星を中心に回っています。理科で習いましたよね。
- 「北辰の其の所に居り」というのは「北極星が、あるべき場所にある」という意味です。「衆星の之に共ふがごとし」というのは、「たくさんさんの周りの星たちは北極星に従って位置づけられる」という意味です。
- 北極星を中心に宇宙、いわゆるコスモスは成り立っています。コスモスとは秩序ある世界という意味です。
- 論語のこのフレーズはもともと政治の話ですから、「北極星」とは為政者の譬えで、優れたリーダーがいれば、周りのスタッフや民衆たちはそれについていくという意味です。
- しかし私はここで言う「北極星」を「目標」という言葉に置き換えることができると考えています。
- つまり「目標を明確に持っているとそれに向けてやるべきことはおのずと分かってくる」という話です。



- 目標である一点がしっかりと定まっていると、全てのものと、例えば、「勉強」や「部活動」「学校行事」「校外での活動」など、あらゆる自分のなすべきことが、迷いなくきちんと回っていくイメージです。
- 逆に、この「北極星」（目標）が定まっていないと、周りの星たちはバラバラになってしまう、つまり、やるべきことがちぐはぐになってしまう、歯車がかみ合わないといった感じです。
- 皆さんの中には、いろいろやっている、頑張っているけど、今一、成果が出ないといった感覚の人はいないでしょうか。それは、あなたの生活が目標を中心とした一つの宇宙（コスモス、秩序ある状態）になりえていないということです。
- では、まとめます。皆さん、新年度の初めに当たり、自分の目標をしっかりと立て、ブラさないで、がっちり定めてください。そうすれば、おのずと自分のなすべきことが見えてきます。「意志あるところに道は拓ける」のです。
- 武高生のみなさん、この学校の魅力は何だと思えますか。校風はどんなところだと思えますか。
- 私もかつてこの学校に勤め、この学校へは2度目の勤務となります。武高生は外見を着飾らない、内面を磨く、毅然・凜然とした、端正・清楚な、さわやかだという印象をもっています。再び、ここで仕事をしながら、武雄高校の魅力を改めて感じていきたいと思っています。
- 全校の皆さん、「目標をもって頑張りましょう！」。武雄高校の新しい年度の始まりです。はりきっていきましょう。
- 以上で私の話を終わります。

